第５・６学年　図画工作科学習指導案

立案者　　藤本 賢春（2022 年度制作）

１　題材名　　想像のつばさを広げて　（読書感想画）

（絵や立体，工作）

〈A 表現（１）イ（２）イ，B 鑑賞（１）ア，共通事項（１）ア，イ〉

２　題材設定の理由

徳島県の小学校では，毎年全学年で「読書感想画」の指導が実施されている。この学習の目的は，「第３３回読書感想画中央コンクール」のホームページ内にある，「どうして読書感想画を描くのですか。」という問いの答えから分かる。その答えは，「読書の感動を絵に描くことは，あなたの読書体験をより深く豊かなものとします。どうやって自分のイメージを色や形にするか，構図はどうするかなど，手を動かし頭を働かせることがあなたの表現力や発想力・想像力を鍛えます。」というものだ。つまり，読書感想画指導の目的は，「A 読書感動画を描くことで，子供の読書体験をより深く豊かなものにすること」，「B 読書感動画を描くことで，子供の表現力や発想力・想像力を鍛えること」であると分かる。

このような目的の下，「読書感想画」の指導は実施されているのだが，多くの教員はこの指導の在り方で頭を悩ませている。このことは，図工の研修会で実施したアンケート結果からうかがえる。主な悩みとして，「①どんな本を基に描かせたらよいか」や，「②みんな同じような作品になってしまう」こと，「③コンクールありきの時間になってしまっている」ことや，「④なかなか描き始められない子供が出てしまう」こと，「⑤子供に読書感想画を描く意欲を感じられない」ことなどが挙げられていた。②や③や⑤に関しては，図工の目的，読書感想画指導の目的の両方に沿っていないと考えられるため解消したい悩みである。そこで，高学年においてこれらの悩みを解消できる題材がどのようなものであるか考え，本題材を設定した。

本題材は，「国語の時間と連携しながら」進めていく。理由は，図工の時間だけで，読書感想画指導の目的を達成することは難しいと考えたからだ。前段で示した，「⑤子供に読書感想画を描く意欲を感じられない」という悩みは，高学年での指導において特に起こりやすいことだと考える。なぜなら，高学年になると子供一人一人の趣味嗜好は多種にわたり，それらへのこだわりも強くなってくる傾向になるからだ。この特性を考えると，「①どんな本を基に描かせたらよいか」という悩みに対する答えは，「子供が『自分で選んだ一冊の本』にするのがよい」ということになってくるだろう。しかしそうなると，子供一人一人が選んだ本の内容を教師が把握し，膨らませ，読書感想画指導をすることになってしまう。これを図工の時間だけですることは大変難しい。そこで，本題材では国語の時間と連携しながら進めていくことを考えた。

国語の時間には，まず「おすすめの本」を紹介し合う活動をする。この活動から読書感想画指導が始まっていく。この時間のはじめには，自分がおすすめする本のどんなところが面白かったり，かっこよかったり，感動的だったりするのか具体的に考えさせ，タブレット端末でおすすめの本の「紹介シート」をつくらせる。その際，紹介をする本は「物語に限らない」ことについて子供たちに周知しておく。多くの教員は，「読書感想画の基となる本は『物語でなければいけない』」と思っているようだ。読書感想画の基になる本は，「専門書や図鑑のようなもの」も含まれる。このことは，「小学校学習指導要領（平成２９年告示）解説国語科編」に「なお，『読書』とは，本を読むことに加え，新聞，雑誌を読んだり，何かを調べるために関係する資料を読んだりすることを含んでいる。」と書かれていることや，筆者が雑誌「学校図書館」から受けた指摘から確かなことである。この事実を知っていれば，子供が選ぶ本の幅をずいぶんと広げてやれるだろう。このように，「『おすすめの本』とはどのようなものか」について踏まえたうえで，子供一人一人に「おすすめの本」を紹介させ，それぞれの本のよさを学級内で共有させる。その後，自分がおすすめした本や友達が紹介してくれた本の中から，各自に「一番印象に残った本」を選ばせる。そして，この「『自分が選んだ一冊の本』を読み，『読書感想画を描いてみよう』」と子供にもちかける。ただし，次の２つのことに留意し，図工の時間へとつなげていく。１つ目の留意点は，「この国語の時間に選んだ本以外を基にして，読書感想画を描いてもよいことにする」ということだ。国語の時間での「おすすめの本」は，文章表現を基に感動し惹かれた本が

多いだろう。だから，自分が選んだ本ではあっても，「絵に表すとなると難しい」と感じる子供が出てきてもおかしくはない。前述した「④なかなか描き始められない子供が出てしまう」という原因を作ってしまわないように，「国語の時間に選んだ本よりも，『もっと絵に表すといいと思う本がある』」という子供が出てきた場合には，その本を基に読書感想画が描けるようにしてやる。その方が，図工の時間によりよく読書感想画を描き進められる。２つ目の留意点は，「子供に『自分が選んだ一冊の本』をじっくりと読む期間を与えてやる」ということだ。この期間中，子供には「印象に残った場面や文章を，『簡単な絵や言葉』」で，ワークシート上にかき出せるようにしておく。そして，それができた子供からワークシートを提出させるようにしておく。こうすることで，教師は図工の時間までに，子供一人一人の描き表そうとしているイメージを「時間差でつかむ」ことができるようになる。子供たちのワークシートにつまった思いを一気に受け止めるのは大変だが，数人ずつの思いなら難なく受け止められる。そして，先に提出されたワークシートは，後から提出する子供の参考資料になり，上手く本選びができていない子供を把握することにもつながる。

このような過程を経て迎える図工の時間では，国語の時間に広げられた子供一人一人の読書感想画のイメージを基に，アイデアスケッチさせることから始める。しかしその前に，「どのように表せば自分が感じたことをよりよく表現できるのか」について学び考えるための鑑賞の時間をとる。ここでは，例えば過去の読書感想画中央コンクールで入賞したような作品のうち，できるだけ異なる構図で描かれたものや，色使いをしている作品を見せるようにする。そして，「〇〇な表現をしているから，××な様子が伝わってくる」というような表現の仕方について子供たちに感じ取らせる。この鑑賞の時間をとることで，本を読んでイメージは湧いていても，どのように描き表現たらよいか分からないという子供を救うことができ，全ての子供の表現方法の幅を広げられると考える。なお，この鑑賞の時間をとることは，「④なかなか描き始められない子供が出てしまう」という悩みの解消にもつながるだろう。

アイデアスケッチ後は，既習の「心のもよう（日文５・６上：平成３１年検定済教科書）」や「季節を感じて(開隆５・６上：平成３１年検定済教科書)」，「わたしの大切な風景（日文５・６下：平成３１年検定済教科書）」や「わたしのお気に入りの場所(開隆５・６下：平成３１年検定済教科書)」などで学んだ表現方法を思い出させ，それらを活用しながら読書感想画を描き進めていけるように促していく。既習の表現方法とは，色使いを工夫することで，あたたかい感じやつめたい感じを表現できたり，筆使いを工夫することで荒々しい雰囲気ややわらかな様子を表現できたりすることや，ものを見る角度や距離を変えることで生まれる構図の面白さに気付いたことや，奥行きを感じられる表現ができたことなどである。これらの表現方法を活用することができれば，子供が描き表現する読書感想画は中学年の時とは明らかに違うものになると考えられる。去年からの成長を感じられることは，子供のやる気の増進にもつながり，「⑤子供に読書感想画を描く意欲を感じられない」という悩みの解消にもつながるだろう。他に，「絵の具以外の材料や用具」をある程度揃えておくことも重要だと考えている。それは，子供一人一人が読書感想画に描き表そうとしている絵の雰囲気や様子を表現するために必要になってくるからだ。例えば，絵の具だけでは表現しきれない動物の毛並みや疾走感も歯ブラシがあれば容易に表現できる。また，ラメペンを使えばキラキラ光っている想像の世界の様子を表現することもできる。このような工夫ができることは，読書感想画を描く子供たちのさらなる想像を生むきっかけにもなる。子供一人一人が「想像のつばさを広げて」読書感想画を描く時間にするためにも，「絵の具以外の材料や用具」を用意しておくことは必須だと考える。さらに，多くの子供たちが「絵の具以外の材料や用具」を活用しながら描いている途中段階で，鑑賞の時間をとることも，子供の想像の幅や表現の幅を広げることにつながると考える。最初にした鑑賞の時間に学び考えた表現をしている友達，それらを掛け合わせた表現方法を生み出している友達，思いもよらない画材や技法を使い表現している友達の作品を見合うことで刺激を受け，絵によい変化が現れる子供が出てきたり，表現方法に悩んでいた子供が描き進める原動力となったりするだろう。

このように，子供一人一人が「想像のつばさを広げて」，様々な工夫をしながら，「自分が選んだ一冊の本」を読んで，感じたこと，想像したこと，伝え合いたいことを絵に表す活動をすることができれば，前述した①～⑤の悩みは全て解消され，読書感想画指導の目的の達成とともに，図工が目指す「子供の創造性を育成する」こともできると考え，本主題を設定した。なお，出来上がった作品は，友達同士で見合い，感想を出し合わせることで，読書感想画にこめられた「造形的なよさや，美しさ，表現の意図や特徴，表し方の変化」

などについて感じ取らせたり考えたりさせて，子供一人一人の見方や感じ方を深めるために活用する。そして，国語の時間に「自分が選んだ一冊の本」を読んで，感じたこと，想像したこと，伝え合いたいことを絵に表す活動をしたことで，「A 読書感動画を描くことで，子供の読書体験をより深く豊かなものにすること」や，「B 読書感動画を描くことで，子供の表現力や発想力・想像力を鍛えること」の達成を目指す。以上のことから，本指導は「高学年における読書感想画指導」になると考える。

３　題材の目標

（１）　「自分が選んだ一冊の本」を読んで，感じたこと，想像したこと，伝え合いたいことを表現する活動を通して，形や色などの造形的な特徴を理解し，その本を読んで，感じたこと，想像したこと，伝え合いたいことを表現するために，必要だと考えた材料や用具を活用したり，タブレット端末で参考資料の検索をしたり，既習の色使いや筆使いをした経験や技能を総合的に生かしたり，表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして，形や色などの造形的な特徴を理解し，表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。

（知識及び技能）

（２）　形や色などの造形的な特徴を基に，「自分が選んだ一冊の本」を読んで，感じたこと，想像したこと，伝え合いたいことから，表したいことを見付けて自分のイメージをもち，形や色，材料の特徴，構成の美しさ，表現の意図や特徴，表し方の変化などについて，感じ取ったり考えたりし，自分の見方や感じ方を深める。

（思考力，判断力，表現力等）

（３）　「自分が選んだ一冊の本」を読んで，感じたこと，想像したこと，伝え合いたいことを主体的に表現したり鑑賞したりする活動に取り組み，つくりだす喜びを味わうとともに，形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。

（学びに向かう力，人間性等）

４　題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・「自分が選んだ一冊の本」を読んで，感じたこと，想像したこと，伝え合いたいことを表現する活動を通して，形や色などの造形的な特徴を理解している。 ・「自分が選んだ一冊の本」を読んで，感じたこと，想像したこと，伝え合いたいことを表現するために，必要だと考えた材料や用具を活用したり，タブレットで参考資料の検索をしたり，既習の色使いや筆使いをした経験や技能を総合的に生かしたり，表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして，表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。	・「自分が選んだ一冊の本」を読んで，感じたこと，想像したこと，伝え合いたいことから，表したいことを見付けて自分のイメージをもち，形や色，材料の特徴，構成の美しさなどの感じなどを考えながら，どのように表すかについて考えている。 ・自分や友達が描いた読書感想画の造形的なよさや美しさ，表現の意図や特徴，表し方の変化などについて，感じ取ったり考えたりし，自分の見方や感じ方を深めている。	・つくりだす喜びを味わい，「自分が選んだ一冊の本」を読んで，感じたこと，想像したこと，伝え合いたいことを主体的に表現したり鑑賞したりする活動に取り組もうとしている。

５　指導と評価の計画（国語３時間，図工８時間）

図工での指導に入る前に，国語の授業で「おすすめの本」を紹介し合う時間をつくる。この時間のはじめには，自分がおすすめする本のどんなところが面白かったり，かっこよかったり，感動的だったりするのか具体的に考えさせ，タブレットでおすすめの本の「紹介シート」をつくらせる。次に，それを基にした発表会を行い，学級内でそれぞれの本のよさを共有させる。その後，自分がおすすめした本や友達が紹介してくれた本の中から「一番印象に残った本」を選ばせる。そして，この「自分が選んだ一冊の本」を読む期間を十分に与え，印象に残った場面や文章をワークシートに簡単な絵や言葉で書き出させおいてから，図工の時間へとつなげていく。

図工の時間には，下記のような指導と評価を行う。そして，作品が完成した後には，図工の鑑賞とは別に，国語の時間を使い「『読書感想画を描いたことで』，新たに感じたことや，想像が深まったこと，さらにおすすめしたくなった点」などについて話し合わせ，「A 読書感動画を描くことで，子供の読書体験をより深く豊かなものにすること」や，「B 読書感動画を描くことで，子供の表現力や発想力・想像力を鍛えること」の達成を目指し，本活動を振り返らせる。

時間	ねらい・学習活動	評価の観点	評価方法等
1	・読書感想画中央コンクールにおける入賞作品のうち，できるだけ異なる構図で描かれたものや，色使いをしている作品を鑑賞し，どのような表現をすれば自分の伝えたいことを効果的に表せるのか考えて発表し合う。	思　○ （鑑賞）	・読書感想画中央コンクールにおける入賞作品を鑑賞し，造形的なよさや美しさ，表現の意図や特徴，表し方の変化などについて，感じ取ったり考えたりし，自分の見方や感じ方を深めているか観察する。 （観察・発言・対話・ワークシート）
	・「自分が選んだ一冊の本」の内容の中で，特に表現したいことを先の鑑賞の時間で学んだことを生かし主体的に考え，アイデアスケッチに取り組む。	態　○	・「自分が選んだ一冊の本」の内容の中で，特に表したいことを主体的に考え，アイデアスケッチに取り組もうとしているか観察する。 （観察・発言・対話・ワークシート）
	・「自分が選んだ一冊の本」を読んで，感じたこと，想像したこと，伝え合いたいことから，表したいことを見付けて自分のイメージをもち，形や色，材料の特徴，構成の美しさなどの感じを考えながら，どのように表わせばよいか考えてアイデアスケッチをする。	思　○ （発想や構想）	・「自分が選んだ一冊の本」を読んで，感じたこと，想像したこと，伝え合いたいことから，表したいことを見付けて自分のイメージをもち，形や色，材料の特徴，構成の美しさなどの感じを考えながら，どのように表せばよいか考えてアイデアスケッチしている様子を観察する。 （観察・発言・対話・ワークシート）
2	・アイデアスケッチを基に，自分のイメージをさらに膨らませ，形や色，材料の特徴，構成の美しさなどについて考えながら，「自分が選んだ一冊の本」を読んで，感じたこと，想像したこと，伝え合いたいことを，どのように表すか考える。	思　◎ （発想や構想）	・アイデアスケッチを基に，自分のイメージをさらに膨らませ，形や色，材料の特徴，構成の美しさなどについて考えながら，「自分が選んだ一冊の本」を読んで，感じたこと，想像したこと，伝え合いたいことを，どのように表すか考えている様子を観察し，記録する。 （観察・発言・対話）

2 3 4	・「自分が選んだ一冊の本」を読んで，感じたこと，想像したこと，伝え合いたいことを表現するために，必要だと考えた材料や用具を活用したり，タブレットで参考資料の検索をしたり，既習の色使いや筆使いをした経験や技能を総合的に生かしたり，表現に適した方法などを組み合わせたりするなどの工夫をして表す。	技　◎	・「自分が選んだ一冊の本」を読んで，感じたこと，想像したこと，伝え合いたいことを表現すために，必要だと考えた材料や用具を活用したり，タブレットで参考資料の検索をしたり，既習の色使いや筆使いをした経験や技能を総合的に生かしたり，表現に適した方法などを組み合わせたりするなどの工夫をして表している様子を観察し，記録に残す。 （観察・発言・対話・作品）
5 6 7	・友達の読書感想画を見て，それぞれの表現のよさや美しさ，意図や特徴，表し方の変化などについて，感じ取ったり考えたりしながら，自分の見方や感じ方を深め表現に生かす。	思　○ （鑑賞）	・友達の読書感想画を見て，それぞれの表現のよさや美しさ，意図や特徴，表し方の変化などについて，感じ取ったり考えたりしながら，自分の見方や感じ方を深め表現に活かしている様子を観察する。 （観察・発言・対話・作品）
	・「自分が選んだ一冊の本」を読んで，感じたこと，想像したこと，伝え合いたいことを表現する活動を通して，形や色などについての造形的な特徴を理解する。	知　◎	・「自分が選んだ一冊の本」を読んで，感じたこと，想像したこと，伝え合いたいことを表現する活動を通して，形や色などについての造形的な特徴を理解しているか観察し，記録に残す。 （観察・発言・対話・作品）
8	・自分や友達の読書感想画を見合いながら，そのよさや美しさ，表現の意図や特徴，表し方の変化などについて，感じ取ったり考えたりし，自分の見方や感じ方を深める。	思　◎ （鑑賞） 態　◎	・自分や友達の読書感想画を見合いながら，そのよさや美しさ，表現の意図や特徴，表し方の変化などについて，感じ取ったり考えたりし，自分の見方や感じ方を深めている様子を観察し，記録に残す。 （観察・発言・対話・作品・ワークシート）

【活動の様子（６年生）】

下の写真は，この指導を受けた全 50 名のうち掲載許可が出た中から選んだ 12 作品である。その他の 38 名の作品も様々な工夫が見られ，指導していて本当に楽しかった。子供によって着目点やこだわる部分が異なり，それらを色々な技法や画材を活用しながら夢中で表現しようとしている姿を皆さんにも是非見てほしい。

※2018 年度に本題材で指導した時の実践記録より